

卒業時調査「教育関連項目」4年連続で過去最高を更新！

2022年度卒業時調査結果（回答率70.2%）によると、「とても満足している」+「満足している」の回答者割合（6件法のうち上位2つの選択）が大学4年間の「授業」で78.7（昨年度78.0）%、「カリキュラム・履修制度」で77.4（昨年度76.6）%となり、過去最高を更新しました。この背景には、授業内でのグループワーク等の取り組みによる視野の広がりや能力の向上があるようです。先生方がアクティブラーニング型の授業実践を工夫いただいていることの成果かと推察いたします。

また、教学面への高い満足感が、大学への総合的満足度と相関していることも示され、改めて教育の質向上の重要性が示されました。引き続き、目の前の学生のよりよい学びを実現していけるよう、先生方と共に不断の教育改善に努めてまいります。今後とも、よろしくお願いいたします。

新企画「たちばな教育セミナー」開始！

これまでの京都橘大学のFDは、各学科のFD活動（学科FD・公開授業など）、たちばな教育サロンでの学内での実践知の共有などといった同僚性に基づく教育開発や、中間・期末授業アンケートの活用・各種教育開発支援制度の活用、各教員の個別の自己点検評価（授業改善集の執筆）といった個人の努力に基づく教育開発を中心に展開してまいりました。

このような学内知の発展の成果として、上述のとおりの高い教育満足度が実現していると考えられます。一方で、学外講師を招いて専門知を得る機会は、年に1回の全学FD学習会に限られていました。そこで、京都橘大学の更なる教育力向上のための新企画として2023年度から「たちばな教育セミナー」を立ち上げることにいたしました。

本セミナーは、学外講師によるものという特徴だけでなく、2回連続の講座であるという特徴を持ちます。1回目は専門知を学ぶ「理論編」、2回目はその実践を共有しフィードバックを得る「実践編」です。全学FD学習会アンケートの中で、「テーマについて複数回開催してほしい」という声がきかれたため、このような複数開催セミナーを企画するにいたしました。

記念すべき2023年度の「たちばな教育セミナー」のテーマは「**授業における合理的配慮と教育的配慮を考える**」と題して、第1回を11月28日（火）4時間目にオンラインで開催し、26名の教職員の方にご参加いただきました。参加者からは、「”全ての学生に”ユニバーサルデザイン」が中心的な内容でした。結果として、想定以上に得るところが多かったです」（教員）「UDな授業づくりのポイントについては、障害の有無にかかわらず学生対応をおこなっていく上で活用できると思いました」（職員）といった声が寄せられました。本セミナーは[教育開発・学習支援室WEBサイト「学内FD関連動画」](#)からご覧いただけます。次回第2回は、2024年1月16日（火）4時間目にオンラインで開催予定です。是非ともスケジュール帳にご記載下さい！多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

「効果的なグループワーク・ディスカッションの工夫」

2023年11月1日に、本年度第2回目の「たちばな教育サロン」を対面とオンラインを同時に行うハイフレックス形式で開催し、**教職員含めて27名の方**にご参加いただきました。以下は、当日のポイントをまとめたものです。報告動画やスライド資料は、[教育開発・学習支援室WEBサイト「学内FD関連動画」](#)からもご覧いただくことができます（パスワードはメール本文に記載させていただいております）。何かしらの参考になれば幸いです。

報告1：意見を出しやすい雰囲気づくり

臨床検査学科 講師 藤原麻有先生

臨床検査学科2年次の必修科目である「キャリア開発演習Ⅲ」での取り組みを紹介します。この科目の主たるテーマは、日常生活や医療現場における人間関係とコミュニケーションを学ぶことです。臨床検査学科の学生は、「間違った意見を言うのは嫌」「自分から発言するタイプでない」「誰かが話してくれたら話せる」「みんなが意見を言ってくれない」というように、グループディスカッションに対する抵抗感をもっています。そこで本科目では、話やすい雰囲気づくりと、この抵抗感をなくすことを目指して授業設計しています。6つのポイントをご紹介します。

- ①グループ人数を**少人数（4名）**にする（通常の講義科目では6-8名で1グループとしています）
 - ②グループディスカッションでの**役割を1人1人明確**にする（司会、書記、発表者）
 - ③取り組む**課題のレベルを徐々に上げていく**（専門知識不要の課題から、専門知識が必要な課題へ）
 - ④コミュニケーションのヒントになる**スキルを教える**（非言語コミュニケーション、質問法など）
 - ⑤ディスカッションの**プロセスを明確にする**（自分の主張を明確にする⇒他のメンバーの主張を確認する⇒自分を含む全メンバーの主張を整理する⇒自分の主張とメンバーの主張を検討する）
 - ⑥ディスカッションの**ルールを明確にする**（自分の意見を変える場合は自他にその理由が明らかである必要がある、自分の考えに固執しない、多数決や平均を出すことはしない、少数意見を尊重する等）
- 以上を踏まえ、集団としての意思決定をしていくトレーニングを繰り返し行い、少しずつコミュニケーションおよびグループディスカッションの実践力を高めています。

報告2：チーム活動だからこそ個人活動がんばってもらいたい

経済学科 教授 乾明紀先生

主に経済・経営学科の2年次生が履修するPBL(Project-Based Learning)科目について紹介します。具体的には「プロジェクトマネジメントⅡ」と「クロスオーバー型課題解決プロジェクト」です。両科目とも50名近い学生が受講しており、1チーム当たり4~6人、合計10チームほどがプロジェクト活動を通じて学びます。

グループワークやプロジェクト活動というと、最初から最後までチームで活動するというイメージを持たれがちですが、私のクラスでは、必ず**個人活動をした後にチーム活動をする**という順序を踏むようにしています。たとえば、ワークシートを活用するにしても、1回目の授業は個人で1つのワークシートを作成し、2回目の授業では同じものを今度はチームで完成させるという要領です。個人ワークシートは、授業時間内だけでは完成させられません。そこでこれを授業課題とし、次のグループワークの前までには完成させて提出させるようにします。そうすることで、**1人1人がきちんと準備をした状態でグループワークに臨む**ことができるため、フリーライダーを生まず、質の高い成果物を創ることができます。また、毎回の授業課題の中で授業の振り返りも記述してもらい、それに対するフィードバックを次の授業で全体に向けてします。その中で、グループワークのスキルを伝え、アドバイスしています。

これらの結果、授業アンケートもほぼ4.7点を獲得し、授業外学修時間も60分以上の学生が過半数となっています。